

モンゴル文化は中国の遺産ではない

中国のプロパガンダに反対しよう

2014年1月16日

近年、中国政府はモンゴルの文化芸術を「中華民族の文化遺産」と宣言する動きを強化してきた。この動きを拡大する様々な方法の一つが、民族文化の独自の伝統を「無形文化遺産」と発表し、それを保護する国連教育科学文化機関（ユネスコ）に登録させる行為である。一つの例として中国政府がモンゴル・ホーミーを中国の名前で登録したことが挙げられる。2009年11月、ユネスコはモンゴル・ホーミーを「中国の伝統的民族芸能」と定義し、中国の文化芸術の一部として登録した。

モンゴルの文化遺産・伝統を中国のものにする継続的なキャンペーン活動として、中国政府が南モンゴルからモンゴルの文化芸術の代表を何度も国連に派遣している。これらの行為はモンゴルの文化芸術を保護して宣伝するというのではなく、モンゴル人の文化遺産を「中国のもの」にするという政治的な長期計画の一つの形である。

2012年10月、モンゴルの伝統医療・生薬を専門とする南モンゴルの医師を国連人間居住計画による高齢者のための国際デーに代表として派遣した。この医師は南モンゴル・オルドスで著名な若い医師で、いくつかの病院・研究所でも勤務している人物である。中国メディアは「国連主催の国際会議にモンゴル伝統医学を専門とする中国の研究者が初めて参加した」と発表した。

2013年2月、内モンゴル保健家族計画委員会の6人の南モンゴル代表が国連を訪れた。中国メディアの報道によると、ユネスコのカタログに登録されたモンゴル伝統医学・生薬を中国の無形文化遺産にして登録しようという中国政府の試みを成功させるための訪問になったと結論づけている。

2013年12月、内モンゴルの伝統芸術「タヒ・モリンホール（馬頭琴）楽団」が国連を訪れた。この訪問の目的は、モンゴルの伝統的なモリンホールを中国の遺産として確認することであり、中国のメディアではこの訪問はモンゴルのモリンホールをユネスコに中国の文化遺産として登録するのに成果があったと伝えている。

2014年1月24～25日、南モンゴルのオルドス民族歌舞劇場の民族舞踊団が米国ワシントンのケネディ・センターで「オルドス婚礼」というモンゴル民族舞踊を演じる予定である。オルドスの舞踊家たちは、中国政府の中国舞台芸術機関の助成金により訪問する。漢語で印刷されたパンフレットには「オルドス

婚礼舞踊は中国の文化遺産で、中国芸術の不可分の一部である」と明記されている。

私たちモンゴル人は、中国政府が行っているモンゴルの文化や習慣を中国人の文化遺産に同化させる政策に反対している。いくら南モンゴルが中国政府の支配下にあるといっても、私たちは言語文化・伝統・芸術・領土により全く別の民族である。南モンゴルは過去 70 年間、中国の厳しい植民地政策下にあり、中国政府はモンゴルの文化遺産・自然環境を破壊してきた。私たちの文化遺産をこのように自らの支配下に組み入れ、「自分たちのもの」と宣言することで、南モンゴルにおける政治・経済・文化の支配を強化しようとするだけでなく、独立国であるモンゴル国をも侵害しようとしている。

私たちは自らの文化遺産を中国によって失われる危険をモンゴル人に警告するだけでなく、モンゴル独自の文化芸術・民族伝統を尊重する人びとが文化芸術に対するこのような手法に抗議するよう主張するものである。この抗議行動は、米国を公式訪問したモンゴル人たち（研究者・歌手・舞踊家など）への抗議ではなく、モンゴルの文化遺産の一部を自らの文化遺産として宣言する中国への抗議である。

南モンゴル人権情報センター
内モンゴル人民党
モンゴル伝統文化基金
モンゴル自由連盟党